

令和2年度	教科	科目	単位数	年次	必修/選択	科目担当者
	家庭科	家庭基礎	2	1	必修	福間 あゆみ
使用教科書			副教材等			
実教出版 新家庭基礎 パートナーシップでつくる未来			なし			

【 科目のねらい 】

- (1) 主体的に生活を営むために必要な基礎的知識・技能を身に付ける。
- (2) 生活の中から課題を発見し、解決する力を身に付ける。
- (3) 周りの人と協働し、自分や家庭、地域生活の充実向上を図ろうとする意識を高める。

【 観点別の到達目標（期待される学習効果） 】

学習の到達目標	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて生活の向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する技術を総合的に身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識を総合的に身に付けている。

【 評価 】

評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
評価の観点	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて生活の向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する技術を総合的に身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識を総合的に身に付けている。
評価方法的な	(1) 授業態度 (2) ノート提出	(1) レポート (2) 定期考査	(1) 作品 (2) 実習の参観 (3) レポート	(1) 定期考査 (2) レポート
割合	25%	25%	25%	25%

【 学習の方法 】

授業の進め方	(1) 授業へ積極的に参加する。 (2) 教科書を中心に行う。 (3) 課題やレポートを行う。
学習上の留意点	(1) 提出物の不備や未提出に関しては評価が大きく下がります。 (2) 提出物・作品製作では期限を守ること。 (3) 被服実習・調理実習での班別行動では協力・協調することが大切です。
家庭学習	(予習) 次回の授業範囲の教科書を読み、事前知識を頭に入れる。 (復習) プリントやノートを見直し、重要な用語を教科書と照らし合わせ再度振り返る。
備考	実習費がかかります。

【 年間計画 】

月	調査範囲	単元	学習内容	学習のねらい	時数	評価の観点				実施時数
						①	②	③	④	
4 5	前期 中間		オリエンテーション	学習の意義や内容、作品製作と提出について、また成績や、評価の方法を理解できる。	1	○				
			自分らしい 生き方と家族	自分を見つめる	各ライフステージの特徴と課題を理解するとともに、家族・家庭・家庭生活の在り方を理解できる。	2	○	○		
		共に生きる家族		3		○	○			
		私たちの生活をさえる労働と生活時間		2		○	○		○	
		住生活をつくる	人と住まいのかかわり	住まいの機能について理解し、住まいの重要性を認識する。	2	○	○		○	
住まいを計画する	3		○		○		○			
7 8 9	前期 期末	高齢者と関わる	高齢社会に生きる私たちの暮らし	高齢社会の現状と課題を理解し、高齢期の心身の変化や特徴、個人差が大きいことを理解することができる。	1	○	○		○	
			高齢者を知る		2	○	○		○	
		子どもと関わる	豊かな高齢期を迎えるしくみ	1	○	○		○		
			子どもを知る	1	○	○		○		
			発達のすばらしさ	3	○	○		○		
衣生活をつくる	人と衣服のかかわり	衣服の成り立ちや素材について理解し、その場に合わせた衣服の選択ができ、簡単な作品をつくることができる。	2	○	○		○			
	衣服の素材・衣生活の管理		2		○	○	○			
	衣生活と資源・環境		1	○						
	すべての人が快適な衣生活を		16		○	○	○			
衣服の形・デザイン	1	○								
10 11 12	後期 中間	食生活をつくる	私たちの食生活	各ライフステージによる栄養バランスの違いを理解した上で食事計画を立てることができる。	1	○	○		○	
			栄養と食品の関わり		10		○	○	○	
			食品の選び方と安全		1	○			○	
			食事計画と調理		4	○	○	○	○	
これからの食生活を考える	2	○			○					
1 2 3	後期 期末	消費者として 自立する	消費行動と意思決定	高校卒業後について、経済的自立と職業について主体的に考えることができる。キャッシュレス社会のメリットデメリットを考え、契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断ができる。	2	○	○		○	
			消費者の権利と責任		3	○	○		○	
			経済のしくみと消費社会		2	○	○		○	
			ライフステージと経済計画		2	○	○		○	

令和2年度	教科	科目	単位数	年次	必修/選択	科目担当者
	家庭科	家庭基礎	2	2	必修	福間 あゆみ
使用教科書			副教材等			
実教出版 新家庭基礎 パートナーシップでつくる未来			なし			

【 科目のねらい 】

- (1) 主体的に生活を営むために必要な基礎的知識・技能を身に付ける。
- (2) 生活の中から課題を発見し、解決する力を身に付ける。
- (3) 周りの人と協働し、自分や家庭、地域生活の充実向上を図ろうとする意識を高める。

【 観点別の到達目標（期待される学習効果） 】

学習の到達目標	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて生活の向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する技術を総合的に身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識を総合的に身に付けている。

【 評価 】

評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
評価の観点	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて生活の向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する技術を総合的に身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識を総合的に身に付けている。
評価方法的な	(1) 授業態度 (2) ノート提出	(1) レポート (2) 定期考査	(1) 作品 (2) 実習の参観 (3) レポート	(1) 定期考査 (2) レポート
割合	25%	25%	25%	25%

【 学習の方法 】

授業の進め方	(1) 授業へ積極的に参加する。 (2) 教科書を中心に行う。 (3) 課題やレポートを行う。
学習上の留意点	(1) 提出物の不備や未提出に関しては評価が大きく下がります。 (2) 提出物・作品製作では期限を守ること。 (3) 被服実習・調理実習での班別行動では協力・協調することが大切です。
家庭学習	(予習) 次回の授業範囲の教科書を読み、事前知識を頭に入れる。 (復習) プリントやノートを見直し、重要な用語を教科書と照らし合わせ再度振り返る。
備考	実習費がかかります。

【 年間計画 】

月	考 査 範 囲	単元	学習内容	学習のねらい	時 数	評価の観点				実 施 時 数	
						①	②	③	④		
4 5	前 期		オリエンテーション	学習の意義や内容、作品製作と提出について、また成績や、評価の方法を理解できる。	1	○					
			中 間	自分らしい 生き方と家族	自分を見つめる 共に生きる家族 私たちの生活をさえる労働と生活時間	各ライフステージの特徴と課題を理解するとともに、家族・家庭・家庭生活の在り方を理解できる。	2 3 2	○ ○ ○	○ ○ ○		
	住生活をつくる	人と住まいのかかわり 住まいを計画する		住まいの機能について理解し、住まいの重要性を認識する。	2 3	○ ○	○ ○	○ ○			
		7 8 9		高齢者と関わる	高齢社会に生きる私たちの暮らし 高齢者を知る 豊かな高齢期を迎えるしくみ	高齢社会の現状と課題を理解し、高齢期の心身の変化や特徴、個人差が大きいことを理解することができる。	1 2 1	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	
	子どもと関わる		子どもを知る 発達のすばらしさ		子どもの育つ力と発達段階を知り、親・家族や周囲の人々の関わりの大切さを理解することができる。	1 3	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○		
衣生活をつくる			人と衣服のかかわり 衣服の素材・衣生活の管理 衣生活と資源・環境 すべての人が快適な衣生活を 衣服の形・デザイン	衣服の成り立ちや素材について理解し、その場に合わせた衣服の選択ができ、簡単な作品をつくることできる。	2 2 1 16 1	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○			
	後 期 中 間	食生活をつくる	私たちの食生活 栄養と食品の関わり 食品の選び方と安全 食事計画と調理 これからの食生活を考える	各ライフステージによる栄養バランスの違いを理解した上で食事計画を立てることができる。	1 10 1 4 2	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○			
			後 期 末	消費者として 自立する	消費行動と意思決定 消費者の権利と責任 経済のしくみと消費社会 ライフステージと経済計画	高校卒業後について、経済的自立と職業について主体的に考えることができる。キャッシュレス社会のメリットデメリットを考え、契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断ができる。	2 3 2 2	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	

令和2年度	教科	科目	単位数	年次	必修/選択	科目担当者
	家庭科	子どもの発達と保育	2	2	選択	福間 あゆみ
使用教科書			副教材等			
子どもの発達と保育 新訂版(実教出版)			なし			

【 科目のねらい 】

- (1) 子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を身に付ける。  
(2) 乳幼児の健全な成長に関心を持ち、乳幼児に関わる意欲や能力、実践的な態度を身に付ける。

【 観点別の到達目標(期待される学習効果) 】

学習の到達目標	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を身につけ、体験的・主体的な学習活動が実践の場で活用することができる。	子どもの発達や保育に関わる幅広い知識を身に付け、子どもの発達、行動、感情、生活などについての理解を深めることができる。これらに関する自身の考えを、レポートなどで表現できる。	子どもの発達や保育に関わる事柄について、実習や観察を通じて知識を深めることができ、子どもを取り巻く問題について推測・考察ができる。	子どもの発達や保育に関する幅広い知識を習得し、子どもの行動や生活に関する基本的な事項が理解できる。

【 評価 】

評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
	子どもの発達や子育て支援について関心を持ち、実際に子どもと関わろうとする意欲と態度を身に付けている。	子どもを生み育てることや、家族の役割や地域の子育て支援などについて課題を見だし、思考を深め、適切に判断し、創意工夫し表現する能力を身に付けている。	子どもと触れ合ったり、子育て支援を行っている人々と交流を図ったりする学習を通して、子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身に付けている。	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識を身に付けている。
評価方法的な	(1) 授業態度 (2) 授業プリント	(1) 定期考査 (2) レポート	(1) 実習の観察 (2) 実習参加態度	(1) 定期考査 (2) レポート
割合	25%	25%	25%	25%

【 学習の方法 】

授業の進め方	(1) 授業に積極的に参加する。 (2) 教科書・プリントを中心に行う。 (3) 保育実習を行います。 (4) 実習では必ずレポートを提出する。
学習上の留意点	(1) 提出物の不備や未提出に関しては評価が大きく下がります。 (2) 提出物・作品製作では期限を守ること。
家庭学習	(予習) 次回の授業範囲の教科書を読み、事前知識を頭に入れる。 (復習) プリントを見直し、重要な用語を教科書と照らし合わせ再度振り返る。
備考	実習費がかかります。調理の際はエプロン・三角巾の用意をお願いします。

【 年間計画 】

月	考 査 期 間	単元	学習内容	学習のねらい	時 数	評価の観点				実 施 時 数	
						①	②	③	④		
4	前 期 中 間		オリエンテーション	「子どもの発達と保育」を学ぶにあたって、学習の意義や内容、座学や体験的学習の方法、評価方法を理解できる。	1	○					
5		第1章 子どもの発達の特性	①生涯発達における乳幼児期の重要性	人間の発達に関心を持ち、乳幼児期が人間の発達の基礎を培う時期であることを理解できる。	5	○	○				
6			②発達と環境		5	○	○				
6			③発達感・児童感とは		3	○	○			○	
7		前 期 期 末	第2章 子どもの発達過程	①身体発達と運動機能の発達	胎児の発育について理解し、生命誕生に関わる母体環境の重要性を理解できる。 乳幼児の身体発育の特徴と傾向を理解し、乳幼児の生理的特徴を学び、養護の重要性も理解できる。	3	○	○			
8				②乳幼児期のからだの発達		1	○			○	
8	③乳幼児期の発達の特徴			1		○	○	○			
8	④人間関係の発達			2		○			○		
9	⑤心の発達			3		○	○	○			
10	後 期	第3章 子どもの生活	①子どもの健康と生活	乳幼児の生活の特徴を学び、健康を保持増進し、順調な成長を促す上で、発育・発達に応じた養護が必要なことを理解できる。 乳幼児の衣服や寝具について、身体的特徴を踏まえ、何を選択したら良いか理解できる。	2	○	○	○			
10			②子どもの食事 実習：子どものおやつを作ろう		3	○	○	○			
10			③子どもの衣服		2	○	○	○			
10			④子どもの遊びと生活		5	○	○	○			
10			⑤子どもの健康管理		5	○	○	○			
11	中 間	第4章 子どもの保育	①保育の意義と目標	保育の目標は、適切に養護しながら教育的に関わることであり、子ども自身の成長・発達を援助、養護することであると理解できる。 子どもが育つ環境の変化を資料などを元に学び、子どもにとって望ましい環境とは何かを考えることができる。	1	○	○				
11			②保育の方法		1	○	○		○		
11			③保育の環境 実習：子どものおもちゃを作ろう		1	○	○		○		
11					6	○	○	○	○		
12	後 期 期 末	第5章 子どもの福祉と子育て支援	①子どもの福祉	児童福祉の理念や法律、制度について学び、単に保護するのみではなく、次代を担う児童の健全育成を目的としていることを理解できる。 児童相談所などの児童福祉機関や施設の種類と目的を学び、児童と家族に対する社会的援助について理解できる。	4	○	○				
12			②子育て支援		7	○	○		○		
12			③実習：子どもの食事を作ろう		5	○	○	○	○		

令和2年度	教科	科目	単位数	年次	必修/選択	科目担当者
	家庭科	服飾手芸	2	3	選択	福間 あゆみ
使用教科書			副教材等			
なし						

【 科目のねらい 】

- (1) 手芸の種類、特徴及び変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を身に付ける。  
(2) 手芸品を創造的に製作し、服飾に活用する能力と態度を育てる。

【 観点別の到達目標（期待される学習効果） 】

学習の到達目標	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
	各種手芸の基礎的な知識・技能を習得することができる。	各種手芸の知識を生かし、オリジナルデザインを考えることができる。	各種手芸の基礎的な技法を活用して、作品をデザインし製作することができる。	各種手芸の知識・技法を活用した作品の創作を生活に取り入れることができる。

【 評価 】

評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
	服飾手芸に関心を持ち、その種類と変遷に興味を持ち、手芸品製作に意欲的に取り組むとともに、実践的な能力を身につけているか。	伝統的な手芸についての技法や特徴を理解し、自分自身の生活のファッションデザインに生かす能力を身につけているか。	各種手芸に必要な、基礎的・基本的な技能を身につけるとともに、自分らしさを表現できるか。	各種手芸の基本形や文化・技法に関する基礎的・基本的な知識を身につけているか。
評具体系的な	(1) 授業態度 (2) 課題提出	(1) 授業プリント	(1) 実習参加態度	(1) 実習製作物 (2) 作品仕上がり
割合	25%	25%	25%	25%

【 学習の方法 】

授業の進め方	(1) 被服室での講義や実習となる。積極的・主体的に実習等に取り組むこと。 (2) 作品制作に取りかかる前に、作品の特徴や歴史に触れ知識を深めてから制作に入る。 (3) 授業ごとに、目標を決め目標まで終われるよう真剣に取り組む。
学習上の留意点	(1) 提出物の不備や未提出に関しては評価が大きく下がる。 (2) 作品の作業進捗も成績に関わるので丁寧に早く美しく仕上げましょう。 (3) 作品は必ず完成したものを提出してもらおう。作業が遅れている人は、昼休みや放課後に補習を行う。
家庭学習	なし
備考	実習費がかかります。

【 年間計画 】

月	調査範囲	単元	学習内容	学習のねらい	時数	評価の観点				実施時数
						①	②	③	④	
4	前期	刺しゅう	オリエンテーション	学習の意義や内容、作品製作と提出について、また成績や、評価の方法を理解する。	1	○				
			①刺しゅうの種類 ②刺しゅう糸の扱い方 ③作品製作 お弁当包み	針や糸の種類を理解し、適した道具をつかって製作することができる。	2 2 4	○ ○ ○	○ ○ ○			
	中間	フランス刺しゅう	①フランス刺しゅう基本技 ②フランス刺しゅうのステッチの名称 ③作品製作	フランス刺しゅうの特徴、ステッチ名を理解し、図案通りに作品製作することができる。	1 1 5	○ ○ ○	○ ○ ○			
			①織物の種類 ②織物の原点 ③テキスタイルデザイン ④作品製作	織物の原理を理解し、自分で考えたデザインを具現化し作品として仕上げることができる。	1 2 10	○ ○ ○	○ ○ ○			
8	前期	織物	①編みものの種類 ②針と毛糸の関係 ③基礎編み（鎖編み・細編み・長編み・糸始末） ③実技テスト ④作品製作	編み目記号と編み方を理解し作品を製作することができる。製作過程で発生した課題について原因を考え糸始末の技法が身についたか。	2 2 3 3 8	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○			
			後期末	棒針編み	①基礎編み（作り目・よこメリヤス・ゴム編み） ②実技テスト	基礎編み、作品製作に意欲的に取り組み、作品を完成させることができる。	4 3	○ ○	○ ○	
	中間	①材料と用具 ②型紙の配置と印付け ③裁断			イメージを具現化し、今まで習った技法を活用して作品を完成させることができる。	2 2 2	○ ○ ○	○ ○ ○		
			後期末	④縫製 ⑤わた詰め ⑥顔つくり ⑦パーツのジョイント		4 1 3 2	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		



令和2年度	教科	科目	単位数	年次	必修/選択	科目担当者
	家庭科	フードデザイン	3	3	選択	福間 あゆみ
使用教科書			副教材等			
フードデザイン 新訂版 (実教出版)			フードデザイン新訂版 学習ノート (実教出版) 七訂準拠カラーガイド食品成分表 (大修館書店)			

【 科目のねらい 】

- (1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を身に付ける。  
(2) 食生活を総合的にデザインし、食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。

【 観点別の到達目標 (期待される学習効果) 】

学習の到達目標	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
	日本の食生活の現状と課題を把握し、食事作りの喜びや集団での食事の楽しさを知ることができる。	年齢別・性別・身体活動レベル別の食事摂取基準の違いを理解して、家族の食事計画が作成できる。	料理様式に対応した献立作成及び専門的な料理ができる、ふさわしいテーブルセッティングができる。	年中行事における食事を理解し、日本の伝統食についての知識と技術を習得し、後世へ伝承することができる。

【 評価 】

評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
	食品に関心を持ち、食育の推進に向けて積極的に取り組もうとする意欲と態度を身につける。	食生活を総合的に捉え、計画・実践するために課題を見だし、思考を深め表現する能力を身につける。	栄養・食品・献立・調理・テーブルコーディネートなどに関する基礎的・基本的な技術を総合的に身につけている。	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を総合的に身につけている。
評具価値的法的な	(1) 授業態度 (2) 授業プリント	(1) 定期考査 (2) レポート	(1) 実習の観察 (2) 実習参加態度	(1) 定期考査 (2) レポート
割合	25%	25%	25%	25%

【 学習の方法 】

授業の進め方	(1) 授業に積極的に参加する。 (2) 教科書・プリントを中心に行う。 (3) 地域の方々との合同の授業もあります。 (4) 実習前は計画を個人またはグループで立て、それに沿って実習を行う。 (5) 実習では必ずレポートを提出する。
学習上の留意点	(1) 毎時間の授業を休まず積極的に取り組んで下さい。 (2) 調理実習等の班別行動は、仲間と協力、協調することが大切です。
家庭学習	(予習) 次回の授業範囲の教科書を読み、事前知識を頭に入れる。 (復習) プリントを見直し、重要な用語を教科書と照らし合わせ再度振り返る。
備考	授業に必要な用具 (調理実習時のバンダナ、エプロン) を忘れずに用意して下さい。 この授業では実習費がかかります。

【 年間計画 】

月	学期	単元	学習内容	学習のねらい	時数	評価の観点				実 施 時 数	
						①	②	③	④		
4 5 6	前期	1章 食生活と健康	オリエンテーション	成績、授業に取り組む姿勢等の説明を受け、今後の学習内容について理解できる。	1	○					
			1節 食事の意義と役割	集団での食事の意義を再確認し、実践する。	3	○	○		○		
			2節 食を取り巻く現状	地球環境の保全、資源の有効活用について理解し日常生活行為を見直す。市場にあふれる食料の背景にあるものに気づき、食料の価値を考える	3	○	○		○		
	中期	2章 栄養素のはたらきと食事計画	1節 からだのしくみと食べ物	人間の栄養摂取のしくみ、消化吸収の働きを理解する。各種栄養素の特徴と体内での働きについて理解する。各種栄養素の体内での消化・吸収の過程を理解する。	6	○	○				
			9節 食事摂取基準と食事計画		8	○	○				
			10節 ライフステージと栄養計画		2	○	○				
	後期	4章 調理の基本	1節 調理とおいしさ	調理の基本的操作を理解し、実生活に結びつける。料理の要点を知り、用途別、対象別に、栄養のバランスや味の調和がとれた料理をつくることことができる。	2	○	○		○		
			2節 調理操作		2	○	○		○		
			3節 調味操作		2	○	○		○		
	7 8 9	前期 中期 後期	3章 食品の特徴・表示・安全	1節 食品の特徴と性質 調理実習 むかわの農作物について知る	調理上の基本的事項を習得し、調理実習や家庭生活の向上に生かせる。家族の健康を考えた日常料理を知り調理できる。 乳・乳製品、卵、魚介類、肉類、大豆・豆製品、緑黄色・淡色野菜、海藻類、果物、穀類、砂糖、油脂、調味料、香辛料の特徴を理解し、おいしい料理をつくること むかわの農産物について地域の方々から学び、生産者の苦勞や喜びに触れることことができる。	7 7 6	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	
10 11	後期 中期	3章 食品の特徴・表示・安全	1節 食品の特徴と性質 調理実習 むかわの農作物について、加工・調理実習	調理上の基本的事項を習得し、調理実習や家庭生活の向上に生かせる。家族の健康を考えた日常料理を知り調理できる。 乳・乳製品、卵、魚介類、肉類、大豆・豆製品、緑黄色・淡色野菜、海藻類、果物、穀類、砂糖、油脂、調味料、香辛料の特徴を理解し、おいしい料理をつくること むかわの農産物について地域の方々から学び、調理できる。	9 8	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	
12 1	後期 前期 後期	5章 料理様式とテーブルコーディネート	1節 料理様式と献立 2節 テーブルコーディネート 調理実習 テーブルコーディネート	食事の意義と役割について理解し、豊かな食事を構成する要素として栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を習得する。 和風・洋風・中国風等の料理を引き立てるようなテーブルセッティングができる。	8 6 4	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	
	後期	6章 フードデザイン実習	1節 献立作成	栄養バランス・年齢・性・身体活動レベル・目的を考慮した食事の献立について、要点が理解でき、用途に適した献立が作成できる	6	○	○	○	○		